

## 令和5年の主な活動をご紹介します。



新型コロナが第5類に落ち着き、ようやく世の中に活気が戻ってきた1年でした。各地の観光地も、コロナ前に近い賑わいです。かいらぎ山岳会の行事も以前のおりに実施することができました。まだまだ規模は小さいですが、令和6年は、より賑わうことを願っています。

### 5月 春のバーベキュー大会



爽やかな青空のもと、滝見荘にて恒例の BBQ 大会が行われました。もっとも、ご高齢の OB 諸氏も多く、ヘルシーメニューが主でした。この場で、前日設置された「焼峰山合目表示板」がお披露目されました。  
\*日除けのブルーシートのため、皆さん青ざめておりますが、本当は**血色良好**です。

### 10月 月見の会



猛暑の影響で紅葉が遅れていましたが、皆さんは変わらず元気です。初めてご参加の方、山荘お泊まりの方も多く、にぎやかでした。夕刻になると、ごく自然に焚き火の周りに集います。さまざまな話題に暗くなるまで盛り上がりました。ところで「月見の会」なんですが、この夜は、ほぼ新月●…(汗)

### 6月 温身平散策



夏に向かい、日に日に濃くなる緑の中、恒例の温身平トレッキングを行いました。

### 5月 焼峰山合目表示設置



焼峰山登山口から山頂まで、有志により合目表示板が設置されました。今までなかったのが不思議くらいです。登山者の励みになります！

### 9月 秋季高体連全県大会



高体連登山大会が滝谷森林公園で行われました。全県17校、250人が参加し、芝高は主管校でした。OBの小川氏から、東赤谷の山の紹介、焼峰山修蔵峰の由来、登山道の整備について講話がありました。生涯スポーツとして安全にいつまでも登山を楽しんでもらいたいものです。

### 現役情報



- 部員数  
1年：7人、2年：2人、3年：8人
- 山行  
4月：新入生歓迎登山(櫛形山)  
5月：春季下越地区大会(五頭山)  
6月：県高等学校総合体育大会(巻機山)・・・**団体女子優秀校**(4位)  
\*がんばりました!  
9月：秋季全県大会(焼峰山)

## 会のホームページをご覧ください！

URLは、<http://reiwakairagi.net> です。ぜひ「お気に入り」へ登録を！

IDは1085、パスワードはyakimineです。皆さんの掲示板への投稿をお待ちしています！

## イベントにもぜひご参加下さい！

会では、季節ごとに色々な催しを計画しています。ここに載せ切れない楽しいイベントもたくさんあります。掲示板でも告知しますので、いつでもぜひ、お気軽にご参加ください。

## 書籍紹介

「遭難」 著者：小島六郎

初版：昭和35年



本書は、戦後の登山ブームの中で発生した15件の遭難を、その経緯や当事者の証言より分析し、解説した書です。著者の小島六郎氏は大学山岳部、新聞社勤務の経験を生かして、登山・山岳に関する書籍を多数著しており、とりわけ山岳遭難に造詣が深い方であったようです。

本書はOBの安食吉朗氏（S27卒）から、かいらぎ山岳会に託されたもので、本文の一章には「焼峰遭難」も取り上げられています。昭和32年、当時の現役生である本田修蔵氏が、厳冬の焼峰山で若い命を散華することとなった、我々芝校登山部OB・OG諸氏には忘れ難い遭難事件です。本書の発行はその3年後で、未だ生々しい記憶が残っている頃です。

当時から70年近くが経ちましたが、登山部は慰霊碑を建立し、碑の修復を重ね、機会あるごとに慰霊登山を行い、この出来事を後輩たちに語り継いできました。もはや遠い過去の出来事となりましたが、この悲劇を風化させることなく、新たな思いを込めて次の世代に引き継ぐためにも、ぜひ諸氏にご一読頂きたい書物です。

ここでは、その概要をご紹介しますが、別紙で詳細な要約をまとめています。また、ご希望の方には全文コピーをご提供します。「かいらぎ山岳会」ホームページにおいても、「天空の扉」の章で、遭難の概要と慰霊碑修復の全記録を掲載していますので、改めてご覧頂ければ幸いです。

本書では、「焼峰山山稜の悲劇―新発田高校生遭難の教えるもの」との章題で、約7千字にわたって遭難の詳細と原因分析を述べています。

印象的であるのは、冒頭部分で、登山に限らずスポーツの一般論として、トレーニングと技術の重要性を強く述べており、後半で語られる遭難原因を暗示する書き出しとなっています。

芝校登山部は、昭和32年の年末に、冬季の焼峰登山を計画しました。目的は、当時の山岳界で注目されていた極地法登山の研究と実践にありました。この経験を生かし、3月に本格的な登山を計画する予定であったようです。参加者は現役・OB混成の総勢9名で、焼峰山中腹にBCを建設し、サポート隊、アタック隊に任務を分担して、C1、C2を設営し、焼峰山頂を越えて赤津山を目指すというものでした。

しかし期末試験直後で、毎日深夜まで勉強に勤しみ、トレーニング不足であったことが、この後の行動に災厄をもたらすことになりました。

BC設営を終え、焼峰山頂にC1を設置し、更に四ツ倉を超えてC2を設営するまでは、まずまず順調に進みました。しかし一夜明けて天候は急変し、急激な気温低下と猛吹雪がアタック隊を襲います。悪天候は、若い彼らの体力を徐々に削り取っていききました。隊員が一人二人と体調異変を訴えはじめ、SLの本田氏は、気力と体力を振り絞りながら撤退をリードします。ところがいくつかの不運も重なり、ますます疲労困憊が深まる中、ついに破局が訪れることとなります。本田氏は滑落して人事不省に陥り、夢くも帰らぬ人となったのでした。

以下、小島氏は、かなりのスペースを費やして遭難原因を分析しています。紙面の都合上、詳細を省きますが、小島氏は決定的な原因として、トレーニングの不足を「あやまちを犯した」と厳しく指摘しています。時代を超えて、現代の登山にも通ずる重い戒めといえるでしょう。

詳しい内容については、別紙「要約」か、原文をお読みください。

## 滝見荘について



3月の山荘

滝見荘は、会のさまざまなイベントの主要会場として、四季を通じて利用されています。その名の通り、眼下には白布のように潇洒な五郎助滝が落ち、夏でも爽やかな空気が満ちています。無雪期は小屋の前まで車が入ります。冬季でも、滝谷集落から1時間前後の快適な雪上ハイクを楽しめます。

会員の方は、どなたでも利用することができます。ご家族、ご友人も一緒にどうぞ。もちろん、各種イベントへのご参加も大歓迎です。ご興味のある方は、山岳会事務局までお気軽にお問い合わせください。